

令和6年度 学校関係者評価委員会

議事録

令和6年5月27日(月)開催

学校法人 滋慶学園

北海道エコ・動物自然専門学校

学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校

学校関係者評価委員会議事録

開催日時 令和6年5月27日(月) 10:30~12:00

開催場所 北海道恵庭市恵み野西5丁目10-4 北海道エコ・動物自然専門学校

出席委員等

学校関係者評価委員

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 卒業生代表 | 白倉 慶大 (株式会社ジョイフルエーカー ペットワールド センター長) |
| 保護者代表 | 葛西 雅栄 (在校生保護者) |
| 高等学校関係者 | 田中 一志 (北海道恵庭北高等学校 進路指導部長) |
| 地域関係者 | 武石 明菜 (ドッグサロン Wan point 代表) |
| 業界関係者 | 樋原 均 (株式会社ペットハウステン・テン 代表取締役) |

(事務局)

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 佐藤 俊 | 学校法人滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学校長 |
| 小川 昭久 | 学校法人滋慶学園 運営本部長 |
| 三瓶 晃司 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 事務局長 |
| 佐々木 拓司 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 教務部長 |
| 門田 英敏 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学科長 |
| 山田 由香 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学科長 |
| 向 日奈子 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 学科長 |
| 川端 真理 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 広報センター長 |
| 上野 正博 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 産学・高専連携センター長 |
| 荒木 周平 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 コンプライアンスセンター |
| 山影 博明 | 学校法人 滋慶学園 北海道エコ・動物自然専門学校 コンプライアンスセンター |

会議の概要

- ・学校長挨拶
- ・議長選出
- ・各委員の紹介
- ・2023年度の自己点検・自己評価内容について 各項目説明
- ・質疑応答

項目については以下の通り

1. 教育理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 教育成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生募集と受け入れ

- 8. 財務
- 9. 法令等の遵守
- 10. 社会貢献
- 11. 国際交流

議事の経緯要領とその結果

定刻となり開始する。

委員全員が出席していただき、委員会の成立を宣言する。

議事に先立ち学校長佐藤より各委員へ挨拶を行う。

「出席いただきありがとうございます。」

この度は令和5年度の教育活動の評価をお願いしています。しかしながらすでに令和6年度が始まっております。今回も昨年度の反省と今年度の運営についてご説明いたします。今年度の学校運営にもご指導、ご鞭撻いただければ幸いです。長い時間の会議となりますが、何卒よろしくお願いたします。」

小川より、学校関係者評価委員会の意義と目的の説明をする。

司会の荒木より委員の方と事務局の紹介を行う。

議長の選任を行う。樋原 均様が規定により議長に推薦され、満場一致承認された。

樋原議長の下、議事審議に入った。

自己点検・自己評価報告

※事務局より、自己点検・自己評価シートとモニターを使用して委員に説明を行う。

1. 教育理念、目的、育成人材像
2. 学校運営

事務局より理念の説明。その後令和5年度の事業報告として要点数字の説明。退学率4.3% 入学生数155名、就職率希望者に対し100%。動物と共に学ぶの理念に基づいて学校運営のグラウンドデザインを構築し、教育を行っている。

保全センターの参画について説明。各機関と連携し希少生物の飼育教育を行っている。

地域貢献プログラム「ECO - Academy」について説明。地域の方と協力し教育活動を行っている。

学校運営についてはグループ5か年計画をもとに事業計画を作成、運営については月2回で職員全員参加の会議にて意思決定を行う。そこでは一人ひとりの学生状況等の共有を行っている。サイボウズ等グループウェアもソフトも活用している。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

3. 教育活動
4. 教育成果

教育活動には教育指導要領と学生便覧にて明示している。授業アンケートも実施できた。評価としては2022年度と比べて微増だが学生からの評価が上がっている。職員研修も充分に行うことができた。資格取得の指導体制ですが、滋慶学園で「J-web」を運用している。国家試験の対策センターを設置しグループ校にて横断的に対策をしている。就職率については評価を2とさせていただいた。希望者は全員就職したが、希望者が大幅に減ってしまった。就職モラトリアムが

原因と考えられる。今年度は就職を希望しない前に対策を行いたい。資格取得率も評価を2としたい。理由は愛玩動物看護師の合格率が79%となったため。全員の合格を目指した。中途退学は2022年度10名だが2023年度は13名となってしまった。退学率は変わらなかったが、急激に学生数が増えているため、相対的に退学者が増加した。13名中9名がメンタルの疾患にてやむなく退学した。スクールカウンセラー等を配置し対応している。

樋原委員より就職率について質問があり、どのような理由で希望しなかったが、その方はその後の動向を把握しているか知りたい。

事務局上野より説明を行った。自己開拓を希望する学生が8名おり、どのような進路を選んだか把握していない。また就職意欲が喪失した学生が6名いた。アルバイト継続が2名。地元に戻りたい学生。今年度改めて活動をしたい学生がいる。また病気療養のため希望しない学生もいた。

樋原委員より学校内のフォローをさらに充実をお願いしたいとの旨の意見があった。

田中委員よりご意見があり、高校指導にて動物に興味があり、専門学校にて学びたいと申す生徒はいますが、その後の就職まで視野に入っているか疑問がある。職業観のミスマッチが考えられる。また動物業界への就職の難易度についてお伺いしたいとの質問があった。

事務局佐々木より説明を行った。一定数の学生は職業観が醸成されず入学する学生がいると感じる。オープンキャンパスにて説明している。しかしながら他業種は就職へのハードルが下がってしまい、そちらへ惹かれてしまう傾向がある。

事務局小川より追加説明をする。本校のみならずグループ校全体にてその傾向は出てきている。就業意欲が持ち合わせず、アルバイトで生計を立てると考える学生が増えてきている。

樋原委員よりご意見いただく。教育成果は重要な課題と考える。ペット業界も原則は接客業でありクレーム、要求の対応力が求められる。ペットが好きだけでは長続きできない業界だと思っている。ぜひ教育課程のなかに取り込んでいただきたい。

5. 学生支援

6. 教育環境

学生支援について就職支援は産学・高専連携センターを立ち上げ就職のみならず幅広い対応をするように組織改編した。またスクールカウンセラーを配置し学生のケアを行っている。カウンセラーとの面談内容は守秘としている。経済事情の支援については学生サービスセンターにて対応している。

課外活動の支援体制は充実できている事説明。道内のペットイベントにボランティア派遣を行った。警察犬の審査会に学生を参加させた。また恵庭市より防災訓練の参加打診をいただきペットを連れた状態での避難の実証実験に協力した。災害救助犬の審査会にも参加し1頭が認定された。また本校にて保護団体の譲渡会にも協力している。学生寮については4棟準備しすべて満室の状態。ペット飼育可とした。保護者との連携は都度行っている、卒業生との連携は「Jキャリアスクール」をweb上で開設し卒業生のスキルアップとキャリア開発を担っている。

教育環境は犬舎を新たに整備している。学外研修は動物飼育学科は6月に国内の著名な動物園、水族館を訪問する国内研修を実施したことを報告。総合ペット学科、動物看護師学科も2月に関

西の保護施設等へ見学旅行を行ったこと報告する。

防災訓練は火事を想定した訓練及び不審者対策としてさす股を使った訓練を実施。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

7. 学生の募集と受け入れ

8. 財務

9. 法令の遵守

学生募集と受け入れについては160名中155名入学していただいた。入学辞退者が多かった。募集については募集要項に従って行っている。教育成果も正確に伝えている。財務状況等については本校のwebサイトに掲載している旨報告する。教育の充実が図られているため、入学者も増加し、財務状況も好転していると考えます。

法令の遵守についても情報公開のページ内で個人情報保護対策等も含め、取り組みを伝えている。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

10. 社会貢献

11. 国際交流

地域貢献としましては地域貢献プログラム「ECO - Academy」を推進していく。その中で夏休みに小学生を対象としたお仕事体験プログラムが大好評であった。

野生生物生息域外保全センターの説明を行う。

国際交流については昨今の円高にて実施プログラムを組み立てるのが非常に難しい状況と考えている。代替案も含め今後も検討していく。

この件に関して委員より特段のご意見、ご質問はなかった。

最後にまとめの質疑応答にて

樋原委員より。

ペット業界に置かれて状況を説明していただく。6月に動物愛護法が改正され1人当たりの飼育頭数が減ってきている。ショップやブリーダーも諸問題をあり、社会が注目している状況である。獣医師会や専門学校と連携し、ペット業界に係る諸問題を解決していきたい。

以上で本日の議事を終了したので議長は閉会を宣言した。